

園長だより NO68

暑い暑い夏 保育環境の工夫が必要

暑い暑いと言いながらもう8月が終わります。

地球の温暖化が進み、気象状況の変化により夏に思う存分、戸外で遊ぶことができなくなりました。太陽の陽ざしをうけ真っ黒に日焼けした子ども達を久しくみていません。

暑さ指数なるものができ、戸外で活動する目安が出され、厳重警戒、危険と指数に応じて活動の指針が出されます。

保育園に訪れる業者（主に保育用品を扱う）と話す機会がありました。話題は新型コロナウイルスの感染対策とこの猛暑、酷暑の中での園生活（子ども達の過ごし方）です。

他園でも戸外遊びは制限されていること、この1カ月園庭で遊んでる姿をみかけることはほとんどないとのこと、感染対策からプールは中止、室内中心の生活が続いているという。

夏の陽ざしを浴びてのびのびと身体を動かして遊んでいたことが懐かしく思えます。

これからも徐々に気温の上昇は進んでいくと言われ、大雨、台風と自然災害への備えも十分にしていかななくてはなりません。

今年の夏は戸外での活動が制限され室内で過ごす時間が増えたこと、保育環境も知恵をしばり、子ども達が主体的に遊べる環境の整えが急務となります。 ※まだまだしっかりと課題に向き合い考え取り組んでいく必要があります。



今年の経験をいかし、子どもの生活環境を工夫して整えていくこと今年の夏より来年の夏はもっと充実している環境をと考えています。

※夏だけを切り取るのではなく、通年の保育環境をしっかりと見直し構成することが大切なのですが・・・



「アクティブラーニング」

一般的に聞きなれていない言葉です。保育や教育界では子ども達の保育や教育のキーワードの一つとされてから数年が経過します。

一般的な意味としては「子ども達が能動的に参加しながら学ぶ機会を設けた形の学習形態」のこととされています。小学校以降の授業では教員が主に進め話していく講義とは異なり体験学習、問題解決型学習、グループワークやディスカッションなど子ども達が受け身ではなく子ども達の主体性を尊重した学びを大切にしているものです。

そんなことが言われ数年が経過しますが、まてまて、保育園での生活では昔から子どもを中心に置き、子どもの主体性を尊重した遊びや生活体験が保育内容の大方を占めています。言葉の獲得、一つをとっても、みて、きいて、感じて、触れてみて、そのモノの名前を覚え、扱い方を覚えていきます。当然、実物に触れることなく、絵カードや文字カードをみたり、耳に入る音声を聞いて覚える（暗記）ことは子ども達にとって望まし経験ではありません。

この夏の出来事です。子ども達とプールに入った時のエピソードです。

子ども達は水遊びが大好き、プールを今か今かと待ち、待望のプール遊び、一緒に入った私も楽しんでいました。子ども達も水を得た魚、いきいきとした表情、気持ちも充足されていけば感情とともに言葉が出てきます。

一人の男の子が「たのしい！」「たのしい！」

「めっちゃ たのしい」とことばを連語、本当に楽しかったのでしょうか、「たのしい」の言葉が口からとめどなく溢れ出していました。

その男の子は「楽しい」という言葉を覚えて数年が経過しますが気持ちを表す言葉の獲得もその気持ちを抱く経験があってこそ獲得に繋がります。



アクティブとは自分から

進んで働きかける

意味を持ちます。子ども達は生活の中で

「おもしろそう」「なんだろう」「やりたいな」「やってみよう」等、常に好奇心、探求心を持ち、興味を持ったこと（もの）に働きかけること、いつも心がアクティブな状態にあることが大切です。

乳幼児期の学びにおいて大切なことは

「主体性を尊重すること」「環境を通じた教育であること」「遊びや生活が中心にあること」が大切とされています。

特に乳幼児期は指示や命令で動かされることや大人主導に与えた（与えられた）、受け身の学びではなく子どもの主体性を尊重した学びが大切であることを心に据えて保育に

あたりたいものです。

学校教育下でも様々な授業の工夫がなされています。

私が子ども頃に受けていた教科の内容をただひたすらなぞり進められ、黒板の板書をひたすら写す授業はどんどんと学習意欲をなくしていったものでした。※私だけかもしれませんが勉強をすることが遠ざかっていきました

社会に出たときに困難に出ったときに学校の学習は役立ったのだろうか、計画に準じて進められた授業、半ば詰め込まれ、個々の学習の習熟度に応じたものとは程遠い内容であった。

昨今の社会の情勢の変化もあり、これではいかんと「アクティブラーニング」なるものが教育のキーワードの一つとして出されていた。実践はまだ道半ばではあるが学校教育の今後に期待がかかる。知識の活用力の基

とされる。「思考力、判断力、表現力」「主体性、協同性 多様性」といった人間力を育て、獲得させていこうとする教育が実践されている。「何を学ぶか」かに偏っていた教育から「どのように学ぶか」ということを重視しています。

保育園でも子どもながら（子どもなり）に自ら決めて、判断して行動できる子どもになって欲しいと願っている。心がいつもアクティブな状態、意欲を持つてることそして行動（動き）が起こせること、そんな子どもの主体性を保障できる保育園でありたい。

（園長 廣部 信隆）